

二次案内

第7回全国OV教員・ 教育研究シンポジウム

協力隊を日本の文化にしよう

～つながろう！つなげよう！
未来の教育と未来の自分たち～



日時

2024年1月7日(日)

10:00～16:05 (受付9:30～)

開催方法

対面とオンラインのハイブリッド開催

場所

JICA東京 (東京都渋谷区西原2-49-5)

<https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/office/access.html>

最寄り駅：幡ヶ谷駅 南口より徒歩8分



参加費

無料(昼食はご持参ください)

目的

途上国での人づくり・国づくりに関わった経験を日本の教育の場で活かすため、全国の仲間が集い、多文化共生やグローバルといった視点で実践を交流するとともに、これから派遣される方々に役立つ情報と元気を共有する。

来場特典

特典1：佐藤先生とお話ができます！



全国の小中高等学校へ配布された「未来の教室SDGsライフキャリアBOOK」、協力隊経験から得られる「12の経験知」を監修された東京都市大学 佐藤真久教授も来場します。

特典2：JICA地球ひろばの
国際理解教材をプレゼント！



主催

全国OV教員・教育研究会
独立行政法人国際協力機構(JICA)

後援

文部科学省
東京都教育委員会
ESD活動支援センター



実践発表 「協力隊経験を未来につなげるために」

こうのいけ しゅんすけ
鴻池 俊輔 氏

静岡県公立小学校教諭（2013年度3次隊/スリランカ/小学校教育）



協力隊経験は自分にとって何だったのだろうか。今の自分は何をしているのだろうか。何ができるのだろうか。帰国後は教職の道を謳歌しながらも、どこか心がモヤモヤする日々を過ごしていました。

今いる場所から一歩前へ。少しでも前へ。小さな挑戦と実践の積み重ねが、きっと新たな出会いと新たな景色を与えてくれます。参加される皆様と「未来」について考えられる日を楽しみにしています。

【プログラム】

時間	内 容
10:00	開会式
10:25	実践発表 鴻池 俊輔氏 「協力隊経験を未来につなげるために」
10:55	意見交換・シェアリング 「途上国での経験から得られる大切なものとは？」
11:35	まとめ ・協力隊を通じて得られた経験 「12の経験知」エピソード ・講評【東京都市大学 佐藤真久 教授】 「協力隊経験を積んだ教員が果たす役割と貢献の可能性」
12:15	昼食休憩(昼食はご持参ください)
13:15	セルフ・プレパレーション 「なりたい自分を創造する」
13:35	テーマ別グループワーク① (テーマ一覧からお申込み時にお選びください)
14:10	テーマ別グループワーク② (テーマ一覧からお申込み時にお選びください)
14:50	振り返り 意見交換・シェアリング 「未来のなりたい自分について」
15:20	総まとめ【東京都市大学 佐藤真久 教授】
15:30	JICAからのインフォメーション 「地球ひろばの教材活用方法について」
15:40	閉会式
16:15	懇親会(自由参加) さらに仲間を増やしましょう。

＜来場参加者グループワーク＞

※お申込み時に2つ選んでください。

- ◎子ども達と考える国際理解教育(ESD、SDGs)に活かす
- ◎多文化共生教育に活かす
- ◎派遣中協力隊員やJICA長期研修員との連携授業に活かす
- ◎教科学習（指導）に活かす
- ◎経験の活かし方を模索中

※＜これから派遣される方対象＞
 訓練前・派遣前相談

※＜協力隊に参加したい方対象＞
 教員の方向け協力隊応募相談（現職教員特別参加制度含む）

＜オンライン参加者グループワーク＞

オンライン参加の方は、グループ内でそれぞれテーマを決めてディスカッションしていただきます。

申込方法

下記URLまたはQRコードからアクセスし、申し込みフォームに沿ってご記入ください。

<https://forms.office.com/r/7f7PisHEzQ>

問合せ先

問い合わせ先：JICA青年海外協力隊事務局
 人材育成課（jvthd@jica.go.jp）



全国OV教員・教育研究会

Facebookページ
facebook.com/zenovkk/

【全国OV教員・教育研究会からのメッセージ】

JICA海外協力隊として途上国での経験を得た私たちは、今の時代にこそ求められる「果敢にチャレンジする姿勢」や「臨機応変さや危機対応」、「ダイバーシティやマイノリティへの寄り添い」、さらには異なる文化や価値を超えた「共生や協働」などの尊さを、グローバルな「知」として身につけた教員集団だといえます。

本研究会は、こうした経験から得た「知」を活かしている教員ひとりひとりの想いや実践を共有する場をつくり、学校・教育委員会・地域社会・市民団体等とのネットワークを強化しながら「協力隊を日本の文化」に、そして「みなさんも自分たちも元気になる」ことを目指して活動しています。